



天遊

25

spring.2013
大阪教育大学 広報誌

[新入生へのメッセージ]

わが大教大を応援しよう。

大阪教育大学長 長尾 彰夫

新入生のみなさん、入学おめでとうございます。

わたしがいま、みなさんにお伝えしたいことは、大阪教育大学に誇りを持ち、本学の学生の活躍と一緒に応援しようということです。

本学は、勉学だけでなく、スポーツの課外活動が非常に盛んです。昨年度は、関西インカレで陸上競技部が1部リーグに残留の快挙を成し遂げました(5月)。また、剣道女子の学生剣道日本一(7月)、ハンドボール女子の2回目となるインカレ全国制覇(11月)などめざましい実績をあげています。

サッカー、硬式野球もがんばっていますが、特筆すべきはアメリカンフットボール部の1部リーグ昇格です。今年9月開幕の関西リーグ戦では、大学日本一の関西学院大学と初戦にぶつかります。2万3千人余の学生数を擁する関学に、約4千人の大教大が挑むのですから、応援しがいがあります。5月には前哨戦となる京都大学との試合もあります。学園歌を高らかに歌い、わが大教大を大いに応援しようではありませんか。



本物の批判精神を —ネット社会を生きる

教員養成課程長 石田 雅人

みなさんと仲間になれたことを心から喜びます。ネット社会に生きるみなさんにひと言。多くの方が日ごろSNSを利用していると思います。便利である反面いろいろな指摘もあることはご存知でしょう。中でも、ネットを通す場合の直情性と利根性が気になります。どうしてもネット上での表現は直接的になります。受け手の気持ちを推測する余裕をもちたいものです。そのうえ情報は長い時間軸で見ることが大事です。

そこで、「読書」によって、表層的ではない、思慮に基づく批判精神を養い、一段上のネット利用者になりませんか。



自らの可能性を拓く学びを

教養学科長 高橋 誠

大学生生活をスタートさせたみなさんに、エールを送りたいと思います。大学は多様な人々が新たな知や能力の創造に向けて学びあう場です。そこには相互の信頼と尊重の精神とともに自由な文化が存在しています。専門分野や授業科目の選択、勉学に対する取り組み方、さらに学生生活全般の送り方など、自らの責任で様々な自己決定がなされる必要があります。その判断によっては、将来の自己の姿について可能な選択肢を狭めることもあります。自らの可能性を拓くために、知識を無批判に受け入れるのではなく、好奇心をもって、広い視野から意味づけ、構造化する「面白い」学び方を目指してはいかががでしょうか。



「しなやかさ」という 宝物を大切に

夜間学部主事 田中 俊弥

ようこそ大阪教育大学へ。昭和戦前期を代表する小学校教師のひとりに国分一郎がいます。彼は、戦後『君ひとの子の師であれば』という本を書き、1970年代には、『しなやかさというたからもの』という著作を残しました。

がむしゃらに勉強し、これからの人生の大いなる礎を築くところが大学です。

知性と感性にすぐれ、しなやかなコミュニケーション力をもった人材が求められている今、東アジアにひらかれたこの大阪という地域を拠点に、大いに読書し、青春の「しなやかさ」を仲間とともに錬磨してください。



INDEX

1

新入生への
メッセージ

2

学生相談窓口から
手をつないで

3...7

卒業予定者
INTERVIEW

8

STUDENTS
NOW!

910

卒業生
CATCH!

11

附属学校園
ウォッチ

12

TOPICS
読者の広場

学生相談 窓口から

その2



すべての学生に開かれています

「勉強がはかどらない」「大学に馴染めない」「授業に行くことができない」「友達や家族、先生のことなどで悩んでいる」「将来がみえない」「なんとなく落ち込む」等々…。

学生時代は自らの生き方や進路選択、対人関係などについて、さまざまな悩みや疑問を抱える時代です。それを乗り越えていく過程は、学生一人ひとりの人間的な成長のための手がかりともなると考えられます。

そのためのサポート機関として本学には、ケースに応じた11の学生相談窓口があります。今回は保健センターの飛谷渉先生を訪ねました。（総務企画課）

まずは一緒に考えてみましょう

「～心は目に見えないものです。そこに不具合が起こったときに初めてその存在を実感するのかもしれない。そのような不具合を自覚なすることはとても辛いことかも知れません。もしかしたらそれは

自分自身について考えるよい機会かも知れません。そのようなときに保健センターのメンタルヘルス相談をご利用になるのも1つの選択です。～」

保健センター発行の「メンタルヘルス相談のご案内」から引用した一節です。

事務局(N)棟1階南側に同センターはあります。そこで、経験豊かな精神科医が随時メンタルヘルス相談を受け付けています。

飛谷さんは、大阪市立大学医学部卒業。浅香山病院で精神科医師をつとめたあと、ロンドン・タビストックセンターに留学。平成21年4月から本学に勤務。フロイトのサイコセラピーを研究。臨床経験豊かな精神科医です。

「当センターでは、1回だけの相談から、長期を見越した定期的面接による心理療法(サイコセラピー)まで、まずは自身のニーズについて一緒に考えてみるということから始めます。もちろんプライバシーは保護されます」

保健センター・メンタルヘルス相談
精神科医師/准教授 飛谷 渉さん



申し込みは、同センターで「相談カード」に必要事項を記入し、受付に提出してください。原則として予約制ですが、急を要する相談では、その旨を窓口で申し出ることになっています。

同じフロアのカウンセリング・ルームとも密接な連携を行っています。



手をつないで

男女共同参画推進コラム

vol.3

男は怒り、女は怖がる? —ジェンダー・ステレオタイプ的作用—

「男子は逞しく、女子は優しく」こうした性別にもとづく期待や価値、あるいは思い込みのことをジェンダー・ステレオタイプとよびます。この、ジェンダー・ステレオタイプというものは、知らぬ間に私たちのものの見方やとらえ方に影響を及ぼすことがあります。見た目からは性別が分からない赤ん坊をもちいた心理実験の結果から、その作用について考えてみましょう。

心理学者のコンドリーらは、びっくり箱に驚かされて泣いている赤ん坊の映像を大学生にみせました。すると、大学生は、赤ちゃんが男の子だと知らされると怒って泣いており、女の子ならば怖がって泣いていると判断する傾向がみられました。つまり、同じ赤ん坊でも、その性別によって泣く理由を異なるふうに変換していたのです。また、心理学者のシーベイらは、人々が赤ちゃんを遊ぶときに、どの玩具を選ぶかを実験しています。すると、「この赤ちゃんは女の子です」と知らされたとき

には、男の子ですと知らされたときよりも、お人形を使う頻度や時間がふえたといえます。

このように、私たちはジェンダー・ステレオタイプにもとづいて物事を判断したり行動したりすることがあります。そうした大人たちから影響をうけて、気の荒い男の子や泣き虫な女の子、また、お人形なんかで遊ばない男の子や、お人形遊びが好きな女の子が育つのもかもしれません。残念ながら、いったん形成されたステレオタイプを払しょくすることは簡単ではないことも心理学の研究で明らかにされています。ですが、こうした思い込みや価値基準が、知らぬ間に私たちの意識や行動に作用していることは心にためておきたいものです。

男女共同参画推進会議

企画専門部会委員 安達 智子(人間科学講座 准教授)

迷ったときは友人に相談するといい

—教職をめざしたきっかけは。

酒井 高校の2年生になって、野球から転身し、バレーボール部に入りました。初心者にもかかわらず、すぐキャプテンを任されました。部員をまとめていくうちにチームがいい成績を上げるようになりました。勝てるチームをゼロから作るという大きな経験が自信となり、多くの人に働きかける教師という職業に関心をもつようになりました。

—本学に入学して、選んだ教科が高等学校の日本史だということですね。

酒井 国際化、グローバル社会といわれますが、まず自国の歴史を知らないと、国際人として通用しないと思います。高校生に、日本の歴史にもっと興味をもってもらえるように努力したいと思います。

—大学での4年間はいかがでしたか。

酒井 バレーボールサークルに入り活動しました。1年間、企画係を任されました。お花見会、新入部員歓迎会などの催しを企画・運営する役割です。どうしたら

楽しい内容になるのか、苦労しました。サークルの仲間とは3、4回生の進路選択になって、教員採用試験の面接などを練習し合っただけで思い出です。

—教員採用試験は順調でしたか。

酒井 実は迷いが一時生じました。大阪府の高校日本史はすごく“狭き門”で、少し諦め気分になり、民間企業にも何社かエントリーしましたがごとく失敗しました。行き詰まり、悩んでいた頃、友人から“お前が本当になりたい高校の教師に絞るべきだ”と活を入れられました。その時は反発したのですが、じっくり自分と対話してみました。そんな折、たまたまあった高校の教育実習に参加したところ、すごく充実感があり楽しかったので、気を取り直して、高校教員一本に照準を当てました。

—その経験から学んだことを、後輩へのメッセージにだけいただけますか。

酒井 迷いが生じ、行き詰まった時には、落ち着いて考え直してみることです。アド

小学校教員養成課程

酒井 善太さん

大阪府の高等学校社会科教諭
(日本史)に採用内定

バイスをくれる大学時代の友人や仲間は何にも代え難い財産だということです。大学4年間は、いろいろなことを経験して広い視野を培ってほしいですね。

卒業予定者INTERVIEW

在学時代に多くの体験を

—教職をめざしたきっかけは。

土井 小学校時代の担任が素晴らしい方でした。毎日、日記を付けさせて、友達との人間関係の悩みなんかを書くと、丁寧なアドバイスが返ってきました。「先生っていいな」とあこがれをずっと抱いていました。

—“教える”ことの楽しさを体験されたのですか。

土井 弟と妹が3人おりまして、学校での勉強を相談され、「こうだよ」とわたしなりに説明すると、わかって喜んでもらったという体験が多くありました。教えるって楽しいなと。

—大学での4年間はいかがでしたか。

土井 忙しかったという印象です。自宅の西宮市から通いましたから往復4時間かけました。勉強以外には、地元・伊丹市の市民オーケストラでバイオリンの団員も務めていました。バイオリンを携行しながら授業を受け、終わるとダッシュで大阪教育大前駅に行くということもありました。スーパーマーケットなどでアルバイトもたくさんやりましたね。

—中学校の先生になられるということですか。

が、算数・数学との出会いは。

土井 中学2年までは数学が嫌いでしたが、これでは高校入試が受からないということで、苦手克服で学習塾に通いました。点が取れるようになってくると面白くなり、高校は理数コースに進みました。1つの設問を解くにはいろいろなアプローチがあることが数学の面白さです。子どもたちにも伝えられたらいいなと思っています。

—趣味は。

土井 中学校では、吹奏楽部でフルートを吹いていました。バイオリンも続けます。4月から赴任する中学校では、吹奏楽の顧問ができればと夢をふくらませています。

—教職をめざす後輩へのメッセージを。

土井 いろんなことを経験してほしい。例えばアルバイトですが、一見、ほかの仕事には役に立たないと思われることでも、次のアルバイトに生かされたりします。社会人になった時に必ず、「あのバイト、やってみよう」と思える時があると思います。



中学校教員養成課程

土井 瞳さん

兵庫県の中学校
数学科教諭に採用内定

スポーツを通して社会に貢献

—教職の道ではなく、民間企業を選ばれた理由は。

荻野 スポーツを通して社会に貢献していきたいという強い思いがあり、それを叶えてくれる企業をめざしてきました。中学校教師になって、運動部の顧問として指導する道もあったのですが、対象が生徒に限られるので、もっと広く人に関わりたと思いました。

—ご自身はどのようなスポーツを経験されたのですか。

荻野 中学・高校でバレーボールの部活動をしてきました。大学でも、バレーボールサークルに入り、キャプテンも任されました。

中学高校の部活動と違い、大学のサークルはメンバー一人ひとりの価値観が違うので、1つの目的に向かってみんなで協力し合う環境づくりに苦心しました。その中で、信頼の置ける仲間がたくさんでき、楽しい思い出をいっぱいつくることができました。

—就職活動でも友人たちと情報交換はしたのですか。

荻野 悩みを共有し互いの人生の深い部

分まで話すことができ、これからも付き合っていけるかけがえのない友人を得ることができました。教職ではなく民間企業に進むことについても、助言や励ましをもらいました。

—大好きなスポーツを仕事にできるなんて素晴らしいですね。

荻野 バレーボール以外にもいろいろなスポーツをやってきました。今はスノーボードにはまっています。20年そこそこのスポーツ経験ですが、スポーツを通して心の成長や人との関わりを広げることができました。また、スポーツは自身が努力しなければ、いい結果は出ないというわかりやすさもあります。お世話になる企業からも、お客様にスポーツを勧める会社の一員として、自らも何か1つ得意なスポーツを続けるようにと指導されています。そういう企業理念もわたしの考えとマッチしました。

—後輩へのメッセージを。

荻野 自分の目標を定めたら、あれこれ悩むのではなく、まず動いてみることで、道が開けると思います。



中学校教員養成課程

荻野 翔太さん

(株)アルペンに採用内定

卒業予定者INTERVIEW

自分の将来像、常に描いて

—教職をめざしたきっかけは。

矢下 小学校時代、学級代表や児童会役員などに選ばれ、人前に立つことが面白くなり、教師になりたいと思うようになりました。

—教育実習はいかがでしたか。

矢下 実習期間最後のとき、担当したクラスの児童全員からお手紙をいただきました。(矢下先生が)教員になったら、また習いたいと言ってくれました。本当に嬉しかったです。よし、やるぞって。

—堺市の教員採用試験にチャレンジしたのですか。

矢下 人物本位、面接重視の採用試験ということで魅力を感じました。面接はたくさんありましたが、楽しくできたように思います。

—大学4年間はいかがでしたか。

矢下 音楽教育専攻で鍛えられたことが印象深いです。ピアノや合唱を担当していましたので、定期演奏会が連続であり

ましたから、忙しい反面学ぶことが多かったです。先生の指導方針で、演奏会の企画や実施は学生自身の手に任されます。同じ仲間と相談して決めるのですが、意見の食い違いから激しく口論をすることもありました。でも、一致したあとは協力し合い、最後は、いい演奏になります。音楽をする仲間と切磋琢磨することができました。

—その舞台は、いつも本学音楽棟のリハーサルホールですね。

矢下 あのホールには、泣き笑いの思い出がいっぱい詰まっています。今は、音楽に力を入れています。最後の卒業発表会(2月5日)ではドレスで独唱の最後の舞台に立ちました。音楽をやっている仲間や先生方が見守る中で、緊張感いっぱいでしたが、充実した思い出深い時間でした。

—後輩へのメッセージを。

矢下 自分の将来像、未来予想図を常に描きながら大学生活を送ることですね。苦しいとき、迷った時でもそのことを思い起こ



小学校教員養成課程

矢下 紗織さん

堺市の小学校教諭に採用内定

したら、乗り越えていけるのではないかと思います。また、自由な時間がいっぱいありますから、後悔しないように、有効に過ごしてほしいです。

自分が面白いと思える活動にチャレンジを



教養学科芸術専攻美術コース(美術)

小林 沙奈美さん

大阪市内のテレビ局美術部に採用内定

—本学美術コースを選んだきっかけは。

小林 写真、油絵、版画、デッサンなど、いろいろな芸術の分野を学ぶことができるカリキュラムが美術コースの魅力でした。最初に志望していたのは別の芸術大学でしたが、オープンキャンパスに参加した際に大学のもつ雰囲気がわたしに合っているなと思い、決めました。

—就職活動はいかがでしたか。

小林 美術系の仕事を求めて、中小企業を中心に25社にエントリーシートを出しましたが、ことごとく断られ少し辛かったです。書類審査を通過し1次面接を受けたのが6社で、2次面接以降に進むことができたのが1社のみ。その会社から内定をいただきました。運と縁があったとしか思えません。エントリーシートに書く文章の言い回しに苦勞し、就職活動が本格化する前にキャリア支援センターや国語の先生に添削して貰えばよかったと反省しています。

—4年間の大学生活は充実していましたか。

小林 芸術を総合的に学ぶことができました。

た。勉強以外では、アートイベントや美術館のスタッフなどのボランティア活動にずっと取り組んでいました。同世代の仲間だけでなく、職種や年代の異なる多くの人たちと知り合うことができました。学内では、学生広報「DAIKYO PRESS」の設立時から参加しました。以前から興味があったフリーペーパーの制作ができるということで、メンバー募集のポスターを見たその日に加入しました。メンバー同士で記事の案を出し合い、取材に行って原稿を書き、記事のレイアウトや見出しの文字に至るまでアイデアを絞り、制作していました。どうすれば円滑に企画を進めることができるのか、常に考えていました。

—後輩へのメッセージを。

小林 好きだと言えることは何か、漠然ともいいので考え続けることが大事だと思います。自分が面白いと思える活動にチャレンジして、その中での人との出会いを大切にしてほしいです。やってきたことの中に、次に進むためのヒントがあるはずですよ。

GO THE DISTANCE

友達をたくさんつくって

—教職をめざしたきっかけは。

荒井 中学1年のとき、従姉妹に自閉症の障がいがあったことで、特別支援教育に関心が向きました。本をたくさん読み理解が深まると、先生になろうと決めました。大阪教育大学は、特別支援を学ぶ学生数が多く、専門コースも選ぶことができるのが魅力でした。

—大学生生活4年間はいかがでしたか。

荒井 最高でした。指導教員の山本晃教授をはじめ特別支援教育講座の先生方にたくさんお教えいただきました。同じ特別支援教育を学ぶ仲間からも刺激を受け、仲良くしていただきました。

—最も関心のある分野は。

荒井 発達障がいに興味があります。奈良YMCAでボランティア・リーダーとして発達障がいを持つ子どもたちの社会的スキルを伸ばす活動を4年間続けています。教職に就いてからも発達障がいを持つ子どもたちの支援に参加したいと思っ

ています。また、医学的見地からの発達障がいについてもさらに研究してみたいという気持ちもあります。

—教育実習はいかがでしたか。

荒井 楽しかったです。小学校と特別支援学校で実習しましたが、子どもってかわいいなと改めて思いました。指導教員の先生方によくしていただきましたし、特別支援学校の教育に一層意欲がわきました。

—後輩へのメッセージを。

荒井 YMCAの活動を始めた頃、発達障がいの子もたちとうまく関わることができなくて、自分は教師に向いていないのではと悩んだことがありました。でも、特別支援教育を学び、同じようにボランティア活動に参加している友達に励まされて、自信を取り戻しました。迷ったとき、ひとりで考えると悪い方向へ行ってしまうがちですが、みんなと話し合うと元気が蘇ってきます。友達はすごく大事にしてほしいと思います。



特別支援教育教員養成課程

荒井 美咲さん

奈良県の特別支援学校教諭に採用内定

子どもの心のより所になれる先生に

—教職をめざしたきっかけは。

坂本 中学校2年の悩んでいるときに、元気がないなど、親身になっていろいろ話を聞いてくれる先生がおられました。数学の先生で、教職3年目の若い女性の方でした。年が近いということもあって何でも話げできました。わたしも悩んでいる子どもの心の支えになりたいと思いました。

—大学4年間はいかがでしたか。

坂本 専門の勉強では、学校現場や病院での実習をたくさん受けさせていただきました。現場の様子も分かり、大変有意義でした。

課外活動では、高校から熱中していたダンスサークルL.S.B.に入り、4年間活動しました。学外でダンスのレッスンを受講し、アルバイトも合間に入れていましたので、とにかく毎日が忙しかったです。学内外の行事等で発表する機会が多く、ダンスに明け暮れた、あっという間の4年間でした。

—4月から八尾市内の小中学校の養護教諭に採用される予定ですが、抱負は。

坂本 何か悩みがあったら、この先生に相談しようと思われるような、子どもにとって頼りがいがあり、心のより所になるような養護教諭になりたいです。

現場実習で印象に残ったのは、生徒のときにみえていた養護教諭とは、忙しさが全然違うと思いました。現場の先生方は、とにかくいろいろな仕事を抱えています。生徒の立場では見えなかったです。どんなに忙しくても、そんな素振りをみせないで、保健室を訪ねればいつでも相談に乗ってあげられるような存在であることを心がけたいと思います。

—教職をめざす後輩へのメッセージを。

坂本 実習などの勉強が進むにつれて、想像していたことと違ったりして不安が募り、夢を投げ出してしまいたくなくなることがありました。迷って自信を失い、わたしは向いてはいないのではないかと。なりた



養護教諭養成課程

坂本 未来さん

八尾市の養護教諭に採用内定

いという気持ちを持ち続けることが大切だと思います。サークルやアルバイトなどいろいろなことを経験し、先輩や後輩とも交流し、アドバイスを受けることも大切だと思います。

卒業予定者INTERVIEW

大学生活を友達とともに

—幼稚園の先生をめざしたきっかけは。

石川 自分が幼稚園児のときにお世話になった先生に憧れを抱いたのがきっかけです。小中高校時代ずっとなりたいと思いつけていました。

大阪教育大学を選んだのは、オープンキャンパスに参加したときの好印象がありました。先輩たちの模擬授業などを見て、アットホームな雰囲気がよかったです。こんなところで学ぶことができたらいいなと。

—大学4年間はいかがでしたか。

石川 3回生から、大阪市の児童いきいき放課後事業の学童保育のボランティア活動などを体験しました。忙しくて大変な仕事だと現場の先生の様子から感じましたが、小さい子どもたちと関わることのできる仕事に魅力を感じました。

幼稚園教員のクラスは17人の小規模で、みんな仲が良く、教員採用の面接試験で自己PRを互いにやってみせるなど勉強し合いました。迷ったとき、遅くまで友達と悩みを語り合ったことが思い出です。

—音楽教育の1つであるリトミックを卒論のテーマにされたとのことですね。

石川 はい。幼稚園の頃からピアノをやってきたので音楽に関心があり、音楽とからだの動き(リズム)について、研究しました。リズムを聞いて、自分が感じたように自由に表現することの教育効果の素晴らしさを学びました。C棟の遊戯室がその研究場所でした。友達と泣いたり笑ったり、語り合ったりと、柏原キャンパスで一番思い出深いところでした。

—ピアノはずっと身近な楽器でしたか。

石川 小さい頃から練習を続けてきました。現在は、クラシックだけでなくポップスやディズニーの歌なども弾きます。好きな曲を思う存分演奏して楽しんでいます。これからも趣味として愉しんでいきたいですが、仕事にも活かせると思います。

—後輩へのメッセージを。

石川 共通の目標をもった友達をたくさん作ってほしいと思います。そして、大学時代に思い出をたくさん作ってください。



幼稚園教員養成課程

石川 都さん

大阪市の幼稚園・小学校教諭に採用内定

サークル、バイト、何でも経験して

—本学の教養学科をめざしたきっかけは。

松本 英語が好きで、欧米系の言語を勉強したいと思っていたところ、言語だけでなく、その国について歴史、文化、文学、社会など幅広く学ぶことができる文化研究専攻に出逢いました。

—大学の4年間はいかがでしたか。

松本 陸上競技部に入り、関西学生陸上競技連盟の学連員を務めました。競技者ではなく、縁の下の力持ちですが、他の大学の学生と協力しながら、大きな大会を成功に導く重要な仕事です。この連盟には他の大学から集まった30人前後の学生がいるのですが、学生同士だけでなく、連盟の先生方とも話し合いながら進めました。達成感を何度も味わいました。コミュニケーション力はついたのかなと思っています。

—専攻のフランス語と、陸上競技、結びつくことがあったようですね。

松本 陸上を通してスポーツに関心が

高まり、フランス人で近代オリンピックの創立者であるクーベルタン男爵を卒論のテーマに取り上げました。オリンピックが勝利至上主義になった弊害でドーピング検査が導入された背景や意義などを研究しました。

—就職活動はいかがでしたか。

松本 エントリーシートの書き方や面接の練習など、もう少しこうしておけばよかったと反省の連続でした。最初は、面接官の質問に、あらかじめ考えていた答えを記憶から引き出しながらもぞつていくようなごちない受け答えをしていました。面接官と会話できるようになった頃、内定をいただいた会社と出逢いました。会社説明会で対応していただいた先輩社員のスーツ姿がかっこよかったです。サービス業で人と関わる販売に携わるのが志望ですが、会社の企業理念もわたしにぴったりでした。

—就活に臨む後輩へのメッセージを。



教養学科文化研究専攻
欧米言語文化コース(フランス語)
松本 佳寿美さん

大手繊維・アパレルメーカーに採用内定

松本 就活が始まる3回生の秋までに、勉強だけでなく、サークル、ボランティア、アルバイトなど何でもいいのでたくさん経験しておくといいと思います。

GO THE DISTANCE

「絶対、先生になる」という強い気持ちを

—教職をめざしたきっかけは。

山崎 学校が好きだったということです。小・中・高校と学校で過ごすのが楽しく、学校で働きたいと強く思ったからです。

—では、小学校教員養成課程を選んだのは。

山崎 大学に入る直前の高校時代に、不登校の子どもに優しく接している先生に出逢うことができました。小学校段階ってすごく大事ななと感じました。

—京都府のご出身と聞きましたが、本学を選んだのは。

山崎 いろいろな大学を調べましたが、昼間いろいろな経験ができ、しかもゆったりと学ぶことができる夜間課程に魅力を感じました。

—社会経験もたくさんできたのですね。5年間の大学生活はいかがでしたか。

山崎 夜は大学で楽しく過ごし、昼間は小学校の教員補助、デイサービスで介護のアルバイト等を経験しました。いろいろな年代の人たちと交流し、仕事の話もたくさんしました。

—サークル活動は。

山崎 合唱とダンスに熱中しました。合唱は1万人の「第九」にも出演しました。ダンスは週1回、専門のレッスンを受けたほどはまりました。体を動かして表現することが好きなのです。

—4月から、教壇に立ち、担任も持つことになりましたが、抱負は。

山崎 不安がないといったら嘘になりますが、まずは子ども一人ひとりをしっかり見ることのできる先生をめざしたいと思っています。どうやったら分かりやすく教えることができるのか、先輩・同僚の先生に教えられながら歩いていきたいと思っています。わたしの得意分野である歌やダンスなどで体を動かして楽しいクラスを作っていきたいです。

—後輩へのメッセージを。

山崎 教職の実習段階にはいると迷ったり悩んだりすることが必ずあります。わたしもそうでした。「絶対、先生になる」という強い気持ちを待ち続けてほしいと思います。



第二部・小学校教員養成5年課程
山崎 絢香さん

京都府の小学校教諭に採用内定

STUDENTS NOW!

声楽を極め、音楽の指導者へ



伊原木 幸馬さん

Yukima Ibaraki

- 教養学科芸術専攻音楽コース4年生
- 大学院(音楽教育専攻・声楽コース)に進学

昨年12月6日に東京で開かれた「第22回日本クラシック音楽コンクール全国大会」(日本クラシック音楽協会主催)の声楽部門・大学生(テノール)で3位入賞しました(1位該当者なし)。私立の芸術・音楽専門大学の学生からのエントリーが多くなかで、国立の教員養成大学の学生が同コンクールの声楽部門で3位以内に入賞したのは初めてのことで。

「大変権威のあるコンクールで入賞できたことは光栄です」

受賞作品はシューベルト作曲「美しき水車小屋の娘」より「第2曲 どこへ? Wohin?」「第3曲 生まれ! Halt!」「第12曲 休み Pause」の3曲です。

伊原木さんは今年夏、「海外音楽大学マスタークラス」(東京国際芸術協会主催・助成)の短期講習会でウィーン国立音楽大学に短期派遣され、さらに声楽の勉強をする予定です。

1歳の頃、歌好きの伯母に連れられてカラオケボックスに通ったのが「音楽との出会い」だとのこと。歌が大好きになり、小学校の頃は校内の音楽発表会に出演したといいます。

「舞台の一番前に立たされて、歌ったことを覚えています。おかげで、人前で歌うことの楽しさを体験させていただきました。この素晴らしさを人に伝えたいという気持ちが高まりました。子どもが好きということもあり、教職という仕事に魅力を感じました」

大阪府泉南郡岬町に生まれました。音楽の道に進むと決めたのは高校時代だそうです。高校時代にクラシックを習った先生が本学特別音楽科(特音、音楽コースの前身)出身の方でした。「声楽や音楽教育を専門的に学ぶことができる大学は大阪教育大学しかない決めました」

入学してみると期待どおりで、音楽以外のいろいろなジャンルの勉強やサーク

ルで活動している仲間と、楽しく充実した4年間を過ごすことができた振り返ります。「声帯は消耗品なので丁寧に扱うことや、レガート(滑らか)に歌いなさいと先生方に指導していただきました。肝に銘じています」

祖父がトランペット、伯母が詩吟、母が三味線、父が民謡・ミキシングなど、音楽一家です。自身もポップスやジャズが大好きだといいます。「家族は、やりたいことをしっかりやりなさいと応援してくれています」と微笑みます。

卒業生 CATCH!



CATCH!

熊谷 佳奈さん
Kana Kumagai

- 養護教諭養成課程2006年3月卒業
- 大阪府立茨田高等学校養護教諭

生徒に寄り添い、一緒に歩いていく養護教諭になりたい

「わ たしは中学・高校時代、保健室に行く機会が多く、保健室の先生には本当に親切にしてくださいました。そこで、養護教諭という仕事があるのだと知りました」

養護教諭は、体調不良やケガの手当てを通して直接子どもたちと関わり、身体だけでなく心もみます。生徒が気軽に相談できるので、お姉さん・お母さんのような存在になることもあります。「生徒に寄り添い、一緒に歩いていく養護教諭になりたいと思っています」

広島県出身ですが、母方の親戚が大阪にいる縁で大阪教育大学・養護教諭養成課程に入学しました。「養護教諭という職業に、最初は漠然としたイメージしかなかったのですが、入学して専門教科の授業を受け、救急処置や看護学、カウンセリングなどを学んでいくうちに、イメージが鮮明になっていきました」

なかでも、4年生の時に行った1か月間の病院実習はすごく印象に残っているといいます。小児喘息で入院中の子どもを担当し、病気を抱えた子どもに対する接し方やその心理を実地で学びました。「なかなか心を開いてくれなかった担当児が最後にはおんぶしてと甘えてきたその時に、人間関係を築けたと実感し、涙が出るほど嬉しかったことを覚えています」

また、大学生や大学院生が、不登校の子どもを訪問し、話し相手や遊び相手になる大阪市の「ハートフルフレンド家庭訪問事業」のボランティア活動に参加しました。かん黙の兄妹を担当し、1年経ってもコミュニケーションが取れなかったこともありましたが、公園に出かけ一緒に遊ぶまでに関係のできた子もいました。「子どもの表現する方法は、言葉だけでなく、態度や表情など、様々だと感じました。子どものペースに乗ってあげること、そして、何よりも感じる心が大切だと学びました」

卒業後、大阪府立八尾翠翔高等学校に養護教諭として採用されました。同校自立支援コースでは、発達障がいや知的障がいの生徒の食育・健康・性などの保健指導を担当しました。4年間の勤務を経て、大阪府の長期自主研修制度で大学院に2年間修学し、復職後、臨床心理士の資格を取得しました。

平成24年度から赴任した茨田高等学校は、生徒のコミュニケーション力向上を図るとともに、もめごと(対立)など、問題へ対応する力を身につける「ピアメディエーション」の取り組みを行っています。「専門性を生かせるのでやりがいのある職場です」

後輩へは、「よく遊び、よく勉強して」とアドバイスを送ります。「机上の勉強だけでなく、ボランティア活動等も経験すると良いです」。また、教員採用試験対策では、キャリア支援センターの先生に助けられたといいます。「頼りになりますので、活用するといいですよ」

卒業生 CATCH!



CATCH!

福井 由記さん
Yuki Fukui

- 小学校教員養成課程教育科学系(心理学)
2009年3月卒業
- ミキハウス(三起商行(株))
榎原近鉄店でサブチーフとして勤務



本学の授業「キャリアデザイン」で
卒業生として講演する様子

お客様の笑顔が仕事へのエネルギー

「洋 服の販売を通してお客様に笑顔になってもらいたい。お子様の成長をご家族と一緒に喜べるのがこの仕事のやりがいです」。自分に会いに来てくれるお客様がいることが何より幸せ、と笑顔向けます。

販売を通じて会社のブランドイメージを伝えるとともに、顧客との会話から得た情報を会社の企画部門へフィードバックすることも、販売員の大切な役割です。

入社3年目。現在は、お店のサブチーフとして店長の補佐をしながら、店舗の運営を学んでいます。店長不在の際は、重要な決断を迫られることもあります。また、ブランド担当としても、予算の計画から商品仕入れ、レイアウトやディスプレイまで任されています。「自分が考えたコーディネートをお客様に気に入っていただき、そのまま買ってくださると心の中でガッツポーズです」

小学校教諭をしている母に憧れ、小さい頃から教師になるのが夢でした。でも、2回

生の頃、子どもは好きだけど、指導者として接するのは何か違うと感じたそうです。「志の違う同級生と一緒に大学の講義を聞いても孤独感を感じ、落ち込み、泣いてばかりいました」。教師以外で、自分にどんな仕事ができるのだろうと葛藤の日々が続いたといいます。

3年生の冬、記念受験のつもりで受けたミキハウスの採用選考で、スタッフのキラキラの笑顔にひとめぼれ。その時は、採用はかないませんでしたが、ここで働きたいと強く感じるようになり、4年生の夏からミキハウスでのアルバイトをスタートさせました。進路変更反対する母と毎日のようにぶつかりながらも、再度応募し2010年春に正社員として入社しました。

楽しく働く姿を見て、今では母も温かく見守ってくれています。「でも、たまに辛くて愚痴をこぼすと、自分で選んだ道でしょ!とすかさず返ってきます」と苦笑い。「自分のおもてなしでお客様に笑顔になってもらい、それによって自分もまた笑顔になる。それが次の仕事へのエネルギーになりま

す」と語る笑顔の裏に芯の強さを感じました。「趣味は仕事?」ではなく、ダイビングだとか。「夏になると1人で沖縄にとびだしちゃいます」。「遊ぶために働き、働くために遊ぶ」がモットーだそう。



01 「発達障がい ～その理解と支援～」 をテーマに講演会



本学障がい学生学修支援ルームは2月6日(水)、柏原キャンパスで「発達障がい～その理解と支援～」をテーマに講演会を開催し、教職員、学生らが参加しました。講演会は、昨年(2月8日)に引き続き2回目で、プール学院大学・学生支援コーディネーターの松久眞実氏を講師に迎えました。同大学は2007年度学生支援GPに採択された「発達障害を有する学生に対する支援活動」という研究テーマで取り組み、現在も発達障

がい学生への支援を先進的に進めています。松久氏は具体的なエピソードを交え、大学での支援のあり方や、発達障がいのある学生を支援しながらどのようにクラス運営を行うかについて、詳しく話しました。

02 「教員の資質向上」を テーマにシンポジウム



本学は、「学び続ける教員」を育む地域と大学の連携の在り方を考える～これからの教員の資質向上

に求められるもの～』をテーマに2月9日(土)、KKRホテル大阪でシンポジウムを開催し、教育委員会関係者、国・公・私立学校教職員、学生ら175人が参加しました。

中央教育審議会から出された答申「教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について」では、教員養成の修士レベル化や教育委員会・学校と大学の連携・協働の取り組みを一層推進する中で「学び続ける教員像」を確立することが提言されています。

これを受けて、シンポジウムでは、地域とともに歩んできた大阪教育大

学の取り組みを紹介しながら、これからの教員の資質向上はいかにして達成されるかについて、教員免許状更新講習を含め、様々な角度から議論を展開することで、今後の地域と大学の連携の在り方や教員養成の修士レベル化の意味することについての共通理解を深めました。

シンポジウムでは長尾彰夫学長、大阪府教育委員会の中西正人教育長からの挨拶のあと、文部科学省高等教育局大学振興課教員養成企画室長の鍋島豊氏が「教員養成の改革について」と題して基調講演を行いました。

読者の広場

ホームページとは別にまた学校の様子がわかるのでありがたいです。

(本学保護者)

いつも充実した内容で楽しみにしています。教育大学関係者のみならず、教育関係者にも興味深い内容でした。

(附属学校職員)

息子は大学に通わせるため、自宅をはなれ一人暮らしをしています。学校の様子をなかなか聞くことができませんので年4回の天遊を楽しみにしたいと思います。

(本学保護者)

いろいろな先生方のことが知れて次号も楽しみです。

(本学保護者)

student nowや卒業生catchの記事を読んで同じ大教生としてよい刺激となります。

(本学学生)

子どもが下宿しており、両親ともそろらに行くことがないので、学校内のことを知る唯一のものです。いろいろな目線での情報をお願いします。

(本学保護者)

本誌にご意見をお寄せください。

今後の誌面づくりに皆様のご意見を積極的に取り入れていきたいと考えています。ご感想やご意見、大阪教育大学についてお知りになりたいことなどを、はがきまたはwebアンケートでお聞かせください。

天遊vol.25 webアンケート



「天遊」とは

「天遊」は、荘子の言葉から引用されたもので、人間の心の中に自然に備わっている余裕をあらわしています。キャンパス統合移転の記念に旧師範学校以来の同窓会3団体から寄贈された記念碑に銘文として刻まれています。記念碑の揮毫は、水嶋昌(山耀)本学名誉教授によるものです。



本紙は再生紙を使用し、環境にやさしいベジタブルインキで印刷しています。この印刷物は、14,000部を593,000円で、すなわち1部42.35円で作成しました。



<キリトリ>

郵便はがき

5 8 2 - 8 7 0 5

柏原局
承認

9

(受取人)

大阪府柏原市旭ヶ丘4-698-1

大阪教育大学管理部

総務企画課 行

料金受取人払郵便

差出有効期間
平成25年9月
30日まで

切手不要

※該当する番号を○で囲んでください

あなたのご所属を教えてください

- | | | |
|-----------|----------|----------|
| ①本学学生 | ②本学卒業生 | ③本学保護者 |
| ④本学教職員 | ⑤附属学校生 | ⑥附属学校保護者 |
| ⑦附属学校卒業生 | ⑧附属学校教職員 | ⑨名誉教授 |
| ⑩教育委員会関係者 | ⑪他大学教職員 | ⑫他大学学生 |
| ⑬その他 () | | |

X(キリトリ)